



環境会計

名古屋工業大学の環境保全活動の主な取り組み内容について、環境省ガイドラインの分類を参考として環境保全コスト、環境保全効果をまとめてみました。

2025 年度は、適切な教育・研究環境を維持しつつ、環境関連法令を遵守するために施設の維持保全の実施のほか、LED 照明化や空調機の高効率化を進めました。

●環境保全活動にかかるコスト（単位：千円）

区分	金額（千円）	内 容
【公害防止コスト】大気汚染防止, 水質汚濁防止等のためのコスト	7,151	空気環境測定, 排水分析, アスベスト調査, PCB 調査など
【地球環境保全コスト】地球温暖化防止, 省エネ等のためのコスト	146,923	LED 照明, 高効率型空調, 人感センサなど
【資源循環コスト】資源の効率的利用, 廃棄物処理等のためのコスト	10,431	産業廃棄物, 廃棄品処分, リサイクル処理など
【管理活動コスト】環境情報の開示, 環境広告, 環境教育, 環境改善のためのコスト	34,215	環境報告書, 樹木管理, 清掃費など
【環境損傷対象コスト】環境保全に関する損害賠償等のためのコスト	8	汚染負荷賦課金
合計	198,728	

●環境保全活動にかかる効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標		
		2024 年	2025 年	削減率
① 事業活動に投資する資源	総エネルギー投入量(GJ)	194,411	190,608	1.96%
	水資源投入量(千m³)	84,804	91,407	△7.79%
	紙類 (PPC 用紙, M用紙 t)	22.2	21.0	5.4%
② 排出される環境負荷	温室効果ガス排出量 t -CO ₂)	8,168	7,772	4.85%
	廃棄物総排出量 (t)	241.8	239.0	1.16%
	総排水量(千m³)	84,804	91,407	△7.79%

△増加

今後も環境保全活動を推進し、省エネルギー、コスト削減に努めていきます。



環境関連法法令の遵守状況

名古屋工業大学では、環境に関する法令を遵守するため、以下のような取り組みを行っています。

2025 年度においては環境関連法令の違反や処分等はありませんでした。引き続き法規制の見落としの無いよう、事業活動における環境への負荷を把握し、適切に管理を行ってまいります。

	法令	本学の具体的な活動内容
【環境】	・環境促進法	・環境報告書の作成，公表
	・環境教育促進法	・環境教育の推進，ガイダンス
	・グリーン購入法	・グリーン購入
【水質】	・水質汚濁防止法	・pH モニタによる排水監視
	・下水道法	・キャンパス内から公共用水域への排水検査
【化学物質】	・PRTR 法	・化学薬品の適正管理，薬品管理システムの運用
【廃棄物】	・廃棄物処理法	・産業廃棄物などの適正な処理
	・PCB 特措法	・PCB 廃棄物の適正な管理，報告
	・各種リサイクル法	・紙類，プラスチックごみ，剪定枝類の資源化推進
		・リサイクル推進によるごみの減量
		・什器の再利用システムの活用
【省エネ】	・省エネルギー法	・電力などのエネルギーの合理的使用
		・人感センサ，高効率照明，高効率空調への更新
		・空調機フィルター清掃の実施
		・節電対策の推進
【安全衛生】	・労働基準法	・産業医，衛生管理者の巡視
	・労働安全衛生法	・学内美化，安全管理の推進

PCB 廃棄物の管理状況について

名古屋工業大学では、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」及び関係法令に基づいて適正に管理・処理を行っています。

高濃度及び低濃度を含む PCB 廃棄物は 2021 年度までに処分を完了しましたが、昨年度、新たに高濃度及び低濃度 PCB を含有する機器が発見されました。発見された PCB 廃棄物は適正に届出を行うと共に、低濃度 PCB 廃棄物は 2027 年 3 月までに処分を行う予定です。高濃度 PCB 廃棄物については、学内で適正に保管しております。